

令和8年度日本大学生物資源科学部一般選抜A個別方式 出題意図

科 目：歴史総合・日本史探求

大問Ⅰ

先史から平安末期に時代を設定し、史料問題も、古い時代から院政期まで問題を設け、日本史の原点である「古代史」について、満遍なく基礎知識を問う問題を制作した。

大問Ⅱ

日本中世の政治・経済史と社会・文化史の関連性が理解できているかを問うための出題とした。

大問Ⅲ

〔文章A〕〔文章B〕を通じて、近世の前期から後期まで、政治・思想・文化の流れを総合的に理解できているかを問うた。

安土桃山時代から江戸時代にかけての政治・社会・思想・文化の流れを総合的に理解できているかを問うた。

大問Ⅳ

1 つめは、日本の近現代史を理解するためには国際社会との関係・つながりが重要であることから、世界の国々との関係をふまえて日本近現代史の大きな流れを理解、把握できているかどうかを問うという点である。

2 つめは、特定の時期・分野に偏ることなく、幕末から現代まで日本近現代史全体のかで、政治・経済・文化など幅広く重要な出来事を理解、把握できているかどうかを問うという点である。

上記1・2の意図をもとに、国際社会との関係もふまえつつ日本近現代史上の重要な出来事についての理解度、把握度を総合的に問う問題として出題した。

[資料A]

主に明治期初年から10年代にかけて盛り上がりを見せた自由民権運動とその周辺に関する出題である。運動の盛衰をたどりながら、あわせて大日本帝国憲法、帝国会議などについても問うことにより、戦前日本における国家的基礎がいかんにして形成されたのかをどれほど理解しているのかをみるための出題となっている。

[資料B]

主に1950年代から60年代における諸外国との国交回復に関する出題である。アメリカとのサンフランシスコ平和条約の締結のみならず、ソビエト、韓国、中国との条約締結の流れや内容、そこに果たした日本の総理の役割についても問うことにより、戦後日本における諸外国との外交関係の基礎がいかんにして築かれたのかをみるための出題となっている。